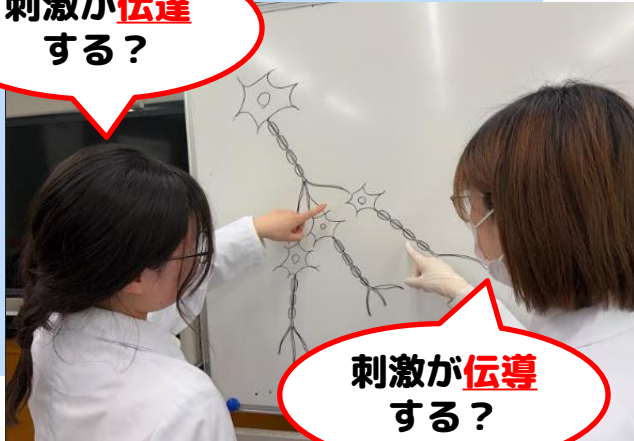


# コミュニケーションができる人 理科編

IBの理科で身に付けるコミュニケーションスキルって??

刺激が**伝達**する?



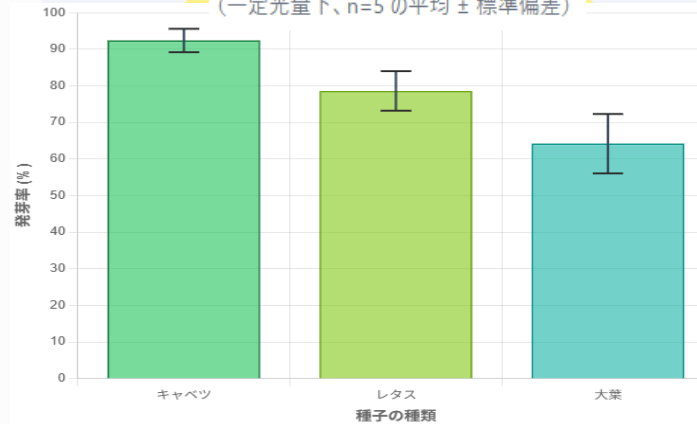
刺激が**伝導**する?

## ① 専門用語を正しく使って現象を説明できるようになる

例えば神経には刺激の「伝達」（神経細胞間で物質が移動する）と「伝導」（神経細胞を電気が流れる）という用語があります。一言で「神経で刺激が伝わる」という生命現象を伝える場合でも、専門用語を正しく使いながら説明することは、お互いの理解を促進し、議論を円滑に行うための大切なスキルです。

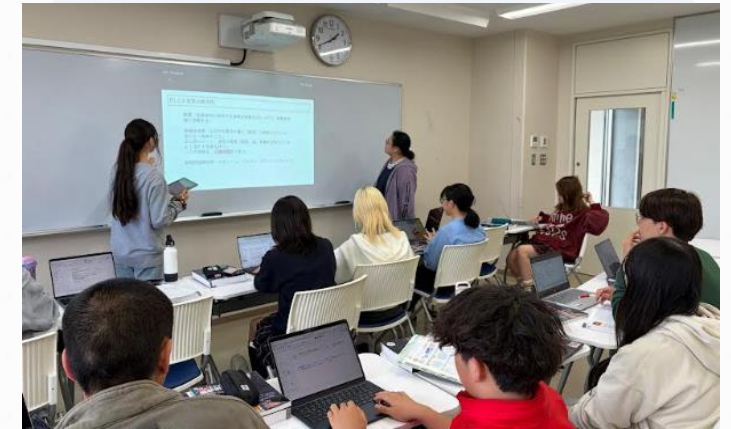
## 種子別の発芽率の比較

(一定光量下、n=5の平均±標準偏差)



## ② 実験結果を正しくグラフや表で表現できるようになる

理科の実験や実習では、仮説に基づいた結果を他者へ正確に共有することが重要です。図表やスケッチを作成する際は、単位の明記や有効数字の整理といった国際ルールを遵守し、客観性を保つことが求められます。自身の考えや成果を相手に分かりやすく伝える工夫を凝らすことは、科学における大切なコミュニケーションスキルの一つです。



## ③ 自然現象や実験結果を専門的に議論できるようになる

IBの授業では、生徒同士が教え合う協働学習を主体としています。専門用語や図表を活用して互いに説明し合うプロセスは、論理的思考力を養うだけでなく、理科の学習者に不可欠な専門的表現力の向上にもつながります。こうした科学的な知識や思考の共有を通じて、理科としてのコミュニケーションスキルを身に付けています。